

シンガポールの図書館について

佐藤 絢

はじめに

僕は本が好きです。学校では文化委員として図書館の整理などをしているので、委員の仕事に役立つことがあるかとも思い、シンガポールの図書館について調べました。

事前に調べたところ、図書館の貸出・検索は電子システムでできること、英語・中国語など様々な言語で書かれた本があること、年齢層によって使いやすいように工夫されている、ということがわかりました。

シンガポールでの調査

バディとふたりで、国立図書館とビシャン図書館に行きました。まず、外観の大きさに驚き、中に入ると、内装や照明、書棚の配置がおしゃれでとても感動しました。

また、図書館の中はとても広いのに、司書のような職員はほとんど見かけませんでした。

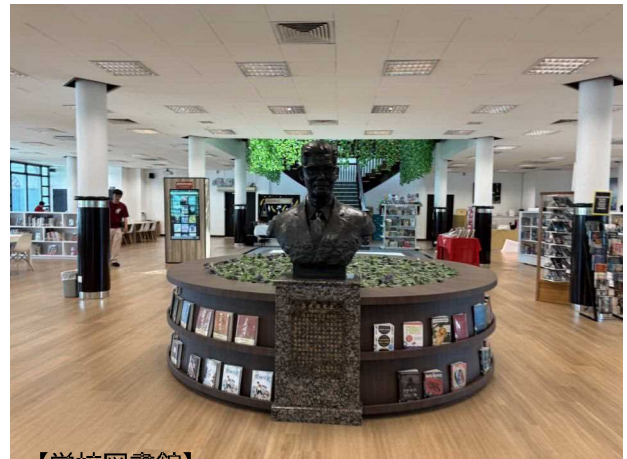
そして、実際に僕の好きな本をPCで検索し探してみたり、バディののおすすめの本を借りてみました。検索は言語の選択ができ、とても便利でした。

下表が、札幌市とシンガポールの図書館の違いです。

項目	札幌（中央図書館）	国立図書館	ビシャン図書館
階数	地上3階・地下2階	地上16階・地下3階	地上3階
防犯方法	盗難防止ゲート	警備員の手荷物検査と盗難防止のゲート	盗難防止ゲート
借りれる人	市民、札幌市内に通勤・通学している人	国民と（無料）、永住者（登録料）、外国人（登録料と年または月額料）	
貸出方法	対人カウンター	機械	
蔵書数	約86万冊	約80万冊	10万～20万冊
言語の種類	英語、中国語、韓国・朝鮮語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、その他	英語、中国語、マレー語、タミル語	
本以外の貸出	CD、ビデオ、DVD	CD、楽譜、雑誌	
コーナー	0～3歳、キッズ、ティーンエイジャー	キッズ、ティーンエイジャー	
自習スペース	2階読書室と南側カウンター PCはない	ほぼ全ての階にある PCが置いてある	あまりない PCが置いてある



【National Library Board (NLB)のHPより】



【学校図書館】

まとめ

図書館は驚くほどきれいでしたが、図書館内の職員は少なく、機械化が進んでいると感じました。

また、地域の掲示板や子どもが遊べるようなスペースがあったり、図書館に来てもらえるような工夫が多く、多くの自習スペースも学生でほぼ満席だったりと、学習環境も充実していました。

バディの学校図書館もモダンで自習スペースが多く、日本語の本もありました。貸出は、対人カウンターでした。

どちら図書館でも本を細かく分類・表示していて、どこにどんな本があるかわかりやすかったので、自分の学校にも取り入れてみたいと思いました。

おわりに

僕は、観光名所に行ったり、有名なものを食べたりすることで、日本との違いを感じることができましたが、異国の文化を持つ人達との他愛ない会話が、一番重要だと思いました。

「相手の会話がわからなければ質問する」「自分の言葉が伝わらなかつたらジェスチャーで伝える」など、自分から努力することで、相手は歩み寄ってくれ、お互いの気持ちがやっと伝わるとわかりました。

このことは、日本の生活でも同じではないでしょうか。相手を理解し、多様な考えを学んでいくことで、もっと自分の世界を広げることができます。

僕は、理解することを諦めず、自分の考えを良い方に、変え続けていける人になりたいです。

